

会議録

会議の名称	令和5年度 第2回西東京市スポーツ推進審議会
開催日時	令和5年6月14日（水曜日） 午後6時から午後7時30分まで
開催場所	西東京市役所田無第二庁舎5階会議室
出席者	（委員）岡田会長、吉田職務代理者、姉松委員、村上委員、湯浅委員、 澤井委員、北岡委員、川村委員 （事務局）高橋生活文化スポーツ部長、越沼スポーツ振興課長、 安藤スポーツ振興係長、増田主事
議題	議題 （1）令和5年度第1回西東京市スポーツ推進審議会会議録(案)について （2）西東京市スポーツ推進計画について （3）令和5年度スポーツ振興事業補助金の交付について （4）その他
会議資料の名称	資料 1 令和5年度第1回スポーツ推進審議会会議録(案) 資料2-1 計画構成の変更(案)について 資料2-2 基本理念案の検討 資料2-3 今後のスケジュールと想定する議題 資料 3 令和5年度西東京市スポーツ振興事業補助金交付資料 その他資料 西東京市スポーツセンター施設整備計画の事後評価について 冊 子 西東京市スポーツに関する市民意識調査報告書
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会</p> <p>2 挨拶 (事務局から挨拶)</p> <p>3 議題 【議題1】令和5年度第1回西東京市スポーツ推進審議会会議録(案)について (事務局から資料1に沿って説明)</p> <p>○会長： 資料1について、ご意見やご質問がなければ公開することとする。</p> <p>(異議なし)</p>	

【議題2】西東京市スポーツ推進計画について

（議事1）基本理念の検討について

（事務局から資料2-1に沿って説明）

○会長：

事務局から提示された5つの案から択一で選ぶのではなく、絞り込んでいくようなイメージで、方向性が集約できるよう議論を進めたい。

○委員：

計画の施策に学校部活動の活性化とあるが、このような表現だと学校現場が活性化されていないような印象を受けるため、「学校部活動の支援」などに表現を変えるのはいかがか。

○委員：

西東京市内には鉄道駅が5駅ある。駅では多くの人が行き交うことから、駅を中心とした「地域」として捉えられるので、地域という表現はよいと考える。基本理念案の「スポーツを通して生涯心豊かに暮らすことができる、活気と魅力あふれるまち」は、高齢者に重点を置いている印象を受けるため、どの世代が見てもイメージしやすい表現を検討できるとよいのではないか。

○事務局：

基本理念案「スポーツが人と地域をつなぐまち 西東京」が委員のご意見に近いのではないか。

○委員：

アンケート調査結果から、健康目的でスポーツをする人が多いことから、「健康」がキーワードになるのではないか。

○事務局：

委員のご指摘のとおり、健康目的でスポーツをする人は、前回調査と比べて5ポイント増加しており、より健康への意識が高まっていることがうかがえる。

一方で働き世代は、スポーツが実施できていない状況もあるため、基本理念案1「だれもがスポーツに親しみ、健康に暮らすまち 西東京」を提示した。

○委員：

若い人は必ずしも健康目的でスポーツをしているわけではないのではないか。

また、基本理念には「地域」を入れたほうがよいと考える。

○委員：

学校教育の分野では「豊かなスポーツライフの実現」をキーワードにしており、そのようなイ

ンパクトのある言葉がよいと考える。

○会長：

年代によってスポーツをする目的や趣向が異なる。

○委員：

「いつでも どこでも 誰もが」という表現は、他の場所でも同様の表現が用いられることが多いことから馴染みがあり、わかりやすいと考える。スポーツを「親しむ」という表現はよい。また、「地域」より「まち」の方が身近に感じるためよいと考える。スポーツに関心がない人もいるため、身近に感じるフレーズがよい。

○委員：

自身が幼い時は、健康目的のためにスポーツをするという認識はなかったが、アンケート調査結果をみると、現在の若い世代のスポーツに対する意識の変化がみてとれる。競技、健康、楽しむためなど目的は様々だが、「健康」という言葉は幅広い世代で浸透しており、スポーツにひもづく言葉になっていることから必要であると考ええる。

○事務局：

WHO が提唱したウェルビーイングという言葉もトレンドとなっており、国の計画にも記載されており、心身のみならず社会的な健康を包括した考え方である。

○委員：

「ウェルネス」という言葉もある。これは健康とは区別される言葉で、動きのある健康というイメージである。武蔵野大学ではウェルビーイング学科が来年度創設される。ウェルビーイング、ウェルネスといった視点は重要だろう。健康のための手段としてスポーツが関わっていくという大きな要素があると考えている。

(議事 2) 基本方針文案の確認について

(事務局から、資料 2-2 の基本方針文案について説明)

○委員：

資料 2-2 の基本方針文案で、環境の「向上」と「充実」という言葉を使っているが、基本方針(タイトル)は「向上」、基本方針文は「充実」という方がわかりやすいのではないか。

○委員：

スポーツに親しむというとは、スポーツを好きになるということだろう。スポーツの楽しさを表現する言葉を入れてもよいのではないか。

○会長：

次期計画の基本方針は、現行計画のよい部分を踏襲しつつ、新しい視点を取り入れて一部を修正していくとよい。

○委員：

基本方針のスポーツによる市民力の向上の修正案にある「共感する楽しさ」という表現はよいと思う。子どもたちがスポーツを通じて自然と高齢者と触れ合えるようなまちになるとよいと考える。

○委員：

若い世代も計画に触れることを考慮すると、カタカナの表現があってもよいと考える。

(議事3) 基本目標文案の確認について

(事務局から、資料2-2の基本目標文案について説明)

○委員：

障害者のスポーツ推進の位置づけが、現行計画と次期計画体系(案)で変わっているのはなぜか。

○事務局：

次期計画体系(案)では、市民(基本目標1)、施設(基本目標2)、地域コミュニティ(基本目標3)、まちづくり(基本目標4)という流れを意識した構成を意識している。市民のなかに、様々な年代の人や障害を持つ人がいることを踏まえ、位置づけを修正した。

ただし施策はひとつの目標のみにひもづくものではなく、別の目標に再掲されることもある。

○委員：

基本目標2にあるだれもがスポーツに親しむことができる環境に関連して、西東京市ではMUFGパークが一般開放される予定となっているが、利用料金が高いと感じる。この点、市から助成等は検討しているのか。

○事務局：

西東京市民に皆様が利用しやすい施設となるように、銀行側に申し入れを行っている。助成等の対応は今後の課題としたい。

○会長：

基本目標1で市民一人ひとりとうたっているが、説明文ではそれが、年齢や性別、障害の有無、国籍等に係わらず、と細分化されているのはなぜか。

○事務局：

共生社会の実現という観点から一般論として例示している。

○委員：

基本目標1の4つ施策の柱のうち、3つは、子ども、成人、高齢者と年代で区切られているのに対し、もう一つは、障害者という表記は疑問である。障害者施策をどこに位置づけるかを検討する必要があるのではないか。

○会長：

「市民」という単語にあらゆる人が包含されるのであれば、あえて分ける必要はないのではないか。

○委員：

障害もある人とない人を分けるのではなく、全体で捉えるのが、最近のトレンドである。

○事務局：

キーワードや方向性は示された。今後、改めて事務局で整理したうえでお示しする。

(議事4) 今後のスケジュールと想定する議題

(事務局から資料2-3に沿って説明)

(異議なし)

【議題3】令和5年度スポーツ振興事業補助金の交付について

(事務局から資料3に沿って説明)

○委員：

アイスホッケーについては、団体ではなく、個人からの申請になるのか。

○事務局：

選抜された個人からの申請となる。

【議題4】その他について

(事務局から、その他資料の西東京市スポーツセンター施設整備計画の事後評価についての説明に沿って説明)

○会長：

この件について、意見や質問あるか。

(異議なし)

○会長：

説明のあった内容の評価で、事務局から提出をお願いします。

続いて次回の審議会の予定の説明を事務局からお願いしたい。

○事務局：

次回は、9月6日（水）を予定している。

○会長：

その他になければ、これで令和5年度第2回西東京市スポーツ推進審議会を終了する。

4 閉会

以上